

韓国印刷学会 2007 年秋季研究発表会に参加して

国際印刷大学校学長・九州産業大学名誉教授
工学博士 木下堯博

韓国印刷学会（呉圭南会長）では2007年11月9日（金）秋季研究発表会を釜山市の釜慶大学校で開催した。（1）春季研究発表会は創立25周年を記念し、ソウル市の成均館大学校600年記念館で国際学術講演会行われ、日本から日本印刷学会尾鍋史彦会長が招待され「新しい印刷科学からみた紙メディア学の可能性」を発表した。（2）日本の場合と同じに年2回の研究発表会が行われている。

今回の秋季研究発表会では11件の発表があり、著者は共同研究者とともに「Studies on Offset Printing for the High Pigment Ink (Part 4)」を発表した。（3）

Flint Ink (BASF) の Nova Space インキを中心として、Kaleido、Wide Color, Japan Color 2001, Doosan Print など各印刷画像を測色学的(L*,a*,b*)にまとめた。また、RI テスターで通常インキの高濃度域の調査を行い、高濃度インキと色域での挙動の違うことを確認した。更に、韓国国内のオフセット印刷のデータ21サンプル（4）との比較もした。

詳細は現在まとめているので改めて報告を予定している。

今回の韓国印刷学会の研究発表内容はオフセット印刷が中心で、インキ転移、新聞印刷、高品質高品位印刷、カラーマネージメントの他グラビア印刷、スクリーン印刷などがあり、すべてが印刷産業に還元できる内容であった。

日本印刷学会 2007 年秋季研究発表会（神戸市）（5）と東京工芸大学野中通敬先生が発表した2007年9月のIARIGAI（フランス・グルノーブル市）の研究発表内容（6）を比較した。（表1）

韓国印刷学会の発表は件数が少ないが、確実に印刷技術及び印刷基礎科学を積み上げている感があった。IARIGAIでの発表の特徴はオフセット印刷に次いで印刷産業に関する発表が多くあり、印刷産業の管理と技術及び環境などとのグローバルな研究がある。

国際印刷大学校研究報告第5巻で三浦澄雄先生がまとめた「日本と外国の印刷研究」（7）では日本印刷学会、IARIGAI、TAGAの2000年から2003年までの研究発表との比較をしているが「直接的に印刷に関する研究」は21、38、59%の順となり、日本印刷学会は21%と少ないことがすでに報告されている。

今回のIGAS2007での大学の24の研究を集めた「先進技術ゾーン」の展示でも直接、印刷に関する研究を発表した大学（研究室）は極めて少なかった。尾鍋史彦会長が指摘（8）しているように日本では印刷産業の発展のため印刷学への回帰が必要であろう。むしろ韓国印刷学会の発表が印刷の紙とインキの基本原則からの発想が多かった印象を得た。

研究発表終了後、発表者の写真撮影があり、発表者を讃えた。また、参加費は無料で多くの大学と企業からの参加があり、活発な質疑応答が行われ、一般開かれた学会発表であった。（写真1）

懇親会は釜山市広安里（海水浴場）にある別会場で行われたが、久しぶりに釜慶大学校、

中部大学校、東国大学校、新丘大学校の教授スタッフとの懇親が出来た。それぞれ専門分野が異なるので研究発表要旨集や文献などを用いて討論を行った。特に韓国国内の商業印刷の調査を行っている釜慶大学校 Kang 教授とは論文のみの交流であったが、韓国のオフセット印刷の標準化に関し、話し合う機会があった。懇親会の終了時に日本印刷学会と韓国印刷学会との日韓標準化委員会(仮称)または、文部科学省の拠点構想の設置を提案した。今後の展開は日本の強力なリーダーシップを必要としよう。

今回の研究発表の準備のため10月29日から11月3日まで渡韓し、データの確認や用語の定義などの韓国語での統一を図った。この期間に韓国民俗村、京畿道立博物館、DMZ(板門店・軍事境界線)近くの臨津閣、Paju市のBook Cityなどを見学した。ソウルの南部の民俗村や博物館では「印刷」の源流を前面に出して、韓紙手漉き実演、木版の印刷実技が出来る設備もあった。ここでは印刷は東洋が中心となり発達してきたことを強調していた。

ソウルの北部にあるBook Cityは38度線近くにあり、印刷・出版会社が200社近く入居していて、相互に協力して企業運営している。ここでは斗山印刷の協力工場のKendae Printing Co. Ltdを見学した。CTP出力センターもあり、このBook Cityですべて資材の供給、調達が可能である。近くにある24時間開港しているIncheon空港から海外に容易に輸出が可能である。韓国のアメリカへの2007年1月から8月までの印刷物輸出は世界9位で8,347万ドルに達している。(9)

2008年5月29日から始まるdrupa2008へは韓国から約1,500名の参加が予定されているとのこと、大変意欲的である。

板門店への見学は旅行社に申し込み、外国人のみが参加できるが、ソウルから列車にて京義線で北上する路線が建設され、民間人統制線の先の臨津江に新しく橋がかけられ、列車は韓国最北端で軍事境界線地域の中の新設駅(都羅山駅)まで開通している。(写真2)

その先、数キロには開城(ケソン)工業団地(北朝鮮国内)があり、軽工業の団地でもある。また約205km先はピョンヤンである。1964年ハイデルベルグ大学に留学していた時、西ベルリンにあるドイツ政府印刷局に見学に行ったとき、東ベルリンにはいり、ベルリン中央駅からモスクワ経由ピョンヤン行きの列車を見た時に地球は狭いと認識した覚えがあった。

2007年4月に米韓FTA(自由貿易協定)が締結され、この開城(ケソン)工業団地での製品も韓国製と認定され、アメリカに輸出される。

印刷は国内産業として各国とも発展してきたが、最近、海外拠点でのオンライン印刷、更には、印刷物や加工物の輸出などが拡大している。釜山市で売られているカレンダーや手帳などは中国製であり、中国の印刷物の輸出はアメリカへは1兆4000万ドルと前年比19.3%と急増している。(9)次回、韓国印刷学会などに参加する機会があればエキスカージョンの参考資料をして頂ければ幸いである。

なお、今回は11月9日当日、博多港から釜山港までビートル号で渡韓したが、帰路、

国際会議に参加した九州大学の院生、また大邱(テグ)大学に交換留学生で帰省する学生と会い、若者の韓国に対するイメージは携帯電話学科のある成均館大学など IT 先進国として学ぶことが多いと意欲的であった。日韓交流が一層進展することを期待している。

最後に韓国印刷学会の指針として呉圭南会長の巻頭言が日本印刷学会誌(10)にまとめられている。ご参考になれば幸いである。本報告をまとめるにあたり(株)斗山印刷の鄭国海工場長はじめ通訳でご協力頂いた一進 PMS(株)の皆様の協力を得ました。ここに謝意を表します。

参考文献

- (1) 韓国印刷学会 2007 秋季研究発表会要旨集 (2007 年 11 月 9 日、釜山市)
- (2) 木下堯博; 印刷情報 第 67 巻 6 号 (2007) www.media-igu.com
- (3) K.H. Chung et al ; Studies on Offset Printing for High Pigment Ink(Part4)
- (4) S.H.Kang et al ; J. the Korean Graphic Arts Communication Society Vol.25 No.1(2007)
- (5) 日本印刷学会 2007 秋季研究発表会要旨集 (2007 年 11 月 16 日、神戸市)
- (6) IARIGAI ; www.iarigai.com
- (7) 三浦澄雄; 国際印刷大学校研究報告第 5 巻 (2005 年 3 月)
- (8) 尾鍋史彦; 印刷雑誌 第 90 巻第 11 号 (2007)
- (9) 泉 和人; Izumi レポート (2007 年 11 月 10 日号)
- (10) 呉圭南; 日本印刷学会誌 第 45 巻第 5 号 (2007)

(2007 年 11 月 16 日記)

Table1 Autumn Conference Paper
Contents (Sept-Nov. 2007)

	Section	IARIGAI	KGCS	JSPST
1	Offset Printing	31.6%	55%	13.1%
2	Gravure, Screen Printing	6.7	18	0
3	Printing Materials	6.7	9	17.4
4	Printing Industry	28.3	0	4
5	Digital ,NIP	6.7	9	13.1
6	Functional Materials	15	9	52.2
7	Environment	5	0	0
	Total Paper Number	60	11	23

Red Font (Italic)1st Rank, Blue Font(Under line) 2nd Rank



写真1 研究発表者集合写真（左から7人目呉圭南会長、8人目筆者）



写真2 韓国最北端の京義線都羅山駅、ここからピョンヤンを経てヨーロッパへの鉄道が開通する希望がある。(drupa2012 までには開通を期待したい。) 写真は Paju 観光地図 (G&G PAJU) から引用した。